



カエルを救おう！  
amphibian ark  
2008 YEAR OF THE FROG

## 国際カエル年活動宣言

今年2008年は、国際自然保護連合 (IUCN) と世界動物園水族館協会 (WAZA) が提唱する「国際カエル年」です。財団法人東京動物園協会 4 園（恩賜上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園、葛西臨海水族園）では、カエルやサンショウウオなどの両生類が危機的状況にあることをふまえ、一年を通して次の4つを柱とする活動を進め、両生類が暮らし続けていくことのできる環境の保全に貢献して参ります。

### まもる活動

動物園・水族園の経験と技術を活かし、両生類の保全活動を進めます

### つたえる活動

さまざまなイベントなどを通じて、両生類の危機を広く伝えます

### つながる活動

国内外の関係機関と協力し、両生類の保全に役立つ活動に取り組みます

### しらべる活動

両生類の保全に向けた調査・研究に力を注ぎます

両生類は今、約半数の種に個体数の減少が見られ、32%の種が絶滅の恐れに直面しています。この危機的状況をもたらした原因については、まだ十分に調査や研究が進んでいません。オゾンホール拡大による紫外線量の増大や地球温暖化による気候変動は潜在的な脅威であり、開発などによる森林や水辺の減少が生息地の急速な変化をもたらしていることは事実です。さらに、オーストラリアやパナマでは、ツボカビという菌類がカエルに壊滅的な影響を与えています。日本でもツボカビに感染したカエルがすでに発見されています。今のところ、日本でカエルツボカビ症の爆発的な感染拡大の兆候はありませんが、決して楽観視することはできません。

東京動物園協会4園では、現在50種以上の両生類を飼育しています。これまでに蓄積した飼育技術を活用し、上野動物園ではトウキョウダルマガエルなど、多摩動物公園ではヤマアカガエルなど、井の頭自然文化園ではツチガエルなど、葛西臨海水族園ではニホンアカガエルなどを飼育・繁殖させ、両生類の種や系統の保存を進めています。これは野生下での絶滅という最悪の事態に備えた「両生類の箱船」計画といえるものです。しかし、本来もっとも大切なことは、野生でくらす両生類が世代交代を続けていける健全な環境を維持することです。飼育・防疫技術の向上に留まらず、各種の生態について調査・研究を進めていきます。

国際カエル年の今年、東京動物園協会4園では、国内外の関係機関とも協力し、さまざまな取り組みを通じて、両生類の現状、そしてその直面している脅威を広く人々に伝え、その保護に向けて具体的な貢献をしていきます。一年を通して、両生類特設展、カエルデーイベント、フィールドでのカエル観察会、園内カエル観察ガイド、講演会などの開催を計画しています。みなさまの積極的なご参加とご協力をお願いいたします。いつまでもカエルの鳴き声を聞くことのできる地球を守るために、東京動物園協会4園は力を合わせて取り組んで参ります。

2008年1月1日

財団法人 東京動物園協会

恩賜上野動物園 園長 小宮輝之

多摩動物公園 園長 土居利光

井の頭自然文化園 園長 永井 清

葛西臨海水族園 園長 上田恭幸